

室内直接噴霧型 超音波加湿器

# FT-F series

FT-F45/F85/F125/F165/F205/F245

F45UV/F85UV/F125UV/F165UV/F205UV/F245UV

## 取扱説明書

このたびは、ユーキャン超音波加湿器をお買いあげいただきまして誠にありがとうございます。このマニュアルをよくお読みになり、取付、保守、点検を行って下さい。

**要保存**

施工業者の皆様へ。  
工事完了後、ユーザーの方へお渡し下さい。

**ユーキャン株式会社**

# 安全上のご注意

ご使用前に必ずお読み下さい。また、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管して下さい。

ここに示した注意事項は、加湿器を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しております。安全に関する重要な内容ですので、必ず守って下さい。



## 警告

人が死亡または重傷を負う恐れのある内容を示しています



## 注意

人が傷害を負ったり、物的損害が発生する恐れのある内容を示しています

※トランスボックスに表示している記号の意味について



感電注意を表しています。



## 警告

- UVランプ搭載機種では、裸眼でUVランプを見ないで下さい。失明の原因となります。
- 濡れた手で電装部をさわらないで下さい。感電の原因となります。
- ACケーブルを傷つける、加工する、引っ張る、無理に曲げるなどのことはしないで下さい。傷ついた部分から漏電して火災や感電の原因となります。
- ACケーブルを束ねたり、結んだりして使用しないで下さい。火災や感電の原因となります。
- 万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常が起こった場合、そのまま使用を続けると火災や感電の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、主電源を抜いて下さい。その後直ちに販売店または最寄りの営業所（巻末に記載）までご連絡下さい。
- 本器の不必要な分解、改造をしないで下さい。火災や感電の原因となります。

## 注意

- UVランプ搭載機種では、UVランプの光を皮膚に長時間当てないで下さい。皮膚の炎症を起こす原因となります。
- 運転中は、移動したり振動をあたえないで下さい。感電、漏電の原因になります。
- 不安定な場所や振動のある場所に設置しないで下さい。加湿器が倒れたりしてけがの原因になることがあります。
- ほこりの多い場所、直射日光の当たる場所、高温や火気の近くには設置しないで下さい。火災の原因になることがあります。
- 緊急時に電源を落とせるように、ブレーカの周りには物を置かないで下さい。発煙等の異常時にブレーカが落とせず、火災や感電の原因になることがあります。
- 指定以外の電源電圧で使用しないで下さい。火災や感電の原因になることがあります。
- アース線は必ず接続して下さい。
- 回路チェックにメガテスターは使用しないでください。高電圧で電子部品故障の原因になることがあります。
- 寒冷地、氷点下で使用する場合は、凍結防止の処置を給水配管全てに行ってください。凍結によりホースが破裂することがあります。
- 振動子の寿命は約5,000時間です。使用環境、条件により寿命が短くなる場合があります。
- 清掃の時は、電源を切って下さい。感電の恐れがあります。
- 水槽内の水を清潔に保つため、3日に一度は水槽内部の清掃を行ってください。雑菌が繁殖することがあります。
- 加湿器を長時間使用しない時は水槽の水を捨てて下さい。排水をしないで引き続き使用しますと、雑菌等により異臭を発生することがあり、身体に悪影響を及ぼすことがあります。
- 手入れが出来ない場合は、電源を切ると自動的に排水する排水電磁弁(オプション)をお勧めします。
- 加湿器には水以外の物を使用しないで下さい。故障を起こし、火災や感電の原因になることがあります。

## 1.工事を始める前に

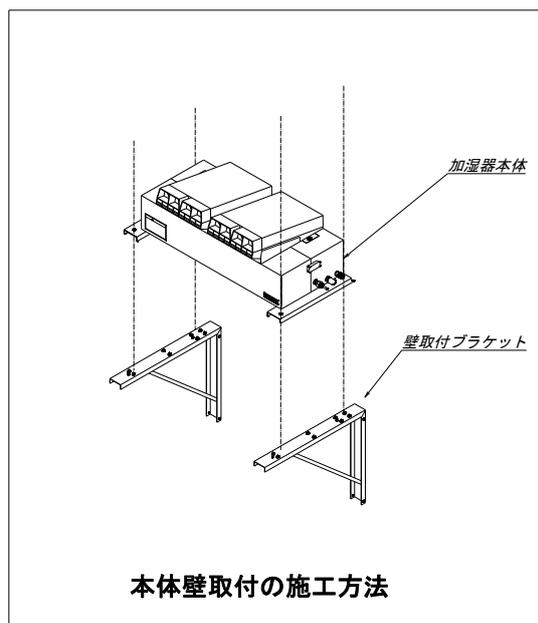
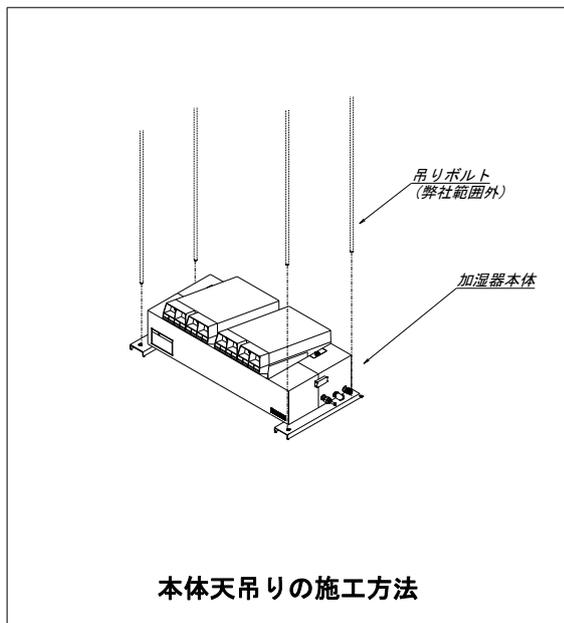
加湿器は、設置する位置によって希望する湿度に素早く達する場合と、そうでない場合があります。取り付け工事を始める前に、空気の流れ、空調機の位置、霧が吹き出す前方に障害物があるか無いかなど、よく検討した上で着工して下さい。

### ■例

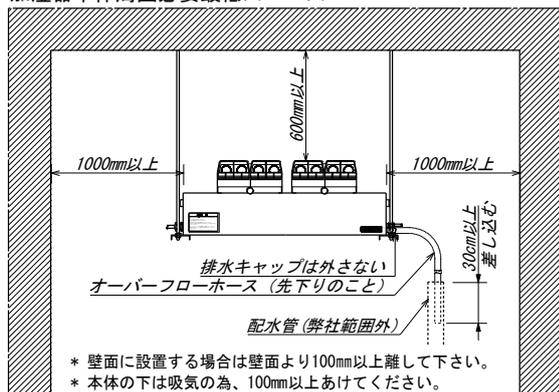
- ①換気扇で排気している場合は、出来るだけ換気扇から遠ざけた場所
- ②空調している部屋で、リターン空気の吸入口がある場合は出来るだけ離れた場所
- ③冷蔵庫で使用の場合は、加湿後すぐに霧が冷却器に吸い込まれない場所で、霧が冷風に乗ってうまく循環するように設置して下さい。
- ④寒冷地では、外部配管系統、加湿器の凍結防止対策を充分に行ってください。

## 2.取付工事

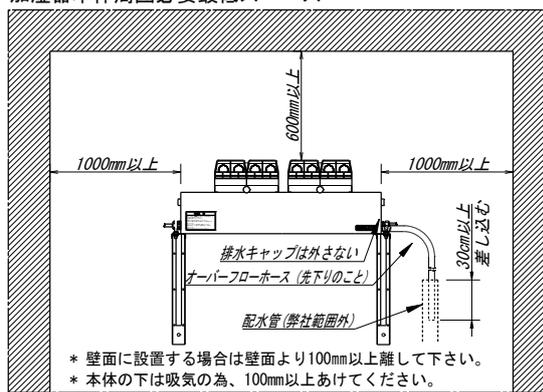
### ■本体の取付



加湿器本体周囲必要最低スペース



加湿器本体周囲必要最低スペース

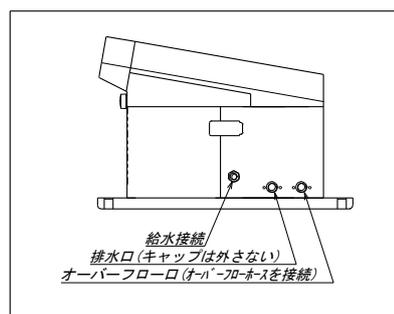


①加湿器本体は、水平に取り付けてください。また、吹出前方4m以内に結露すると困るものがない様に取り付けてください。

②加湿器最上部から天井までは、600mm以上間を取って下さい。壁面取付の場合は、加湿器背面から壁面まで100mm以上間を取って下さい。また、加湿器本体の下は、吸気の為100mm以上スペースを取って下さい。

③後々の保守サービスのため、本体の脱着が簡単に行えるように配慮して取り付けして下さい。高い場所に設置する場合は、保守、サービス用の足場などを設けて下さい。

④オーバーフローホースは経年劣化で変形するため、排水管から飛びでないよう、必ず30cm以上差し込んでください。



### 3.電源トランスボックスの取付

- ① 電源トランスボックスは、高温多湿になる場所を避けて取り付けて下さい。(冷蔵庫の場合は、庫外へ設置して下さい)
- ② 加湿器本体をより遠方へ取り付ける場合は、加湿器に付属している電源コードでは足りませんので、あらかじめ継ぎ足し用コードを準備し、加湿器型式の電流値にあった太さの電線を使用して下さい。
- ③ 後々の保守、サービスのため上蓋が容易に脱着できるように配慮して下さい。

### 4.ヒュミディスタットの取付 (別売品)

- ① ヒュミディスタットのセンサー部は、室内の一番コントロールを行いたい位置で、直接霧のかからない場所に取り付けて下さい。
- ② 弊社製電子タイマーをご利用の場合は、添付してある取付・取扱説明書をご参照下さい。

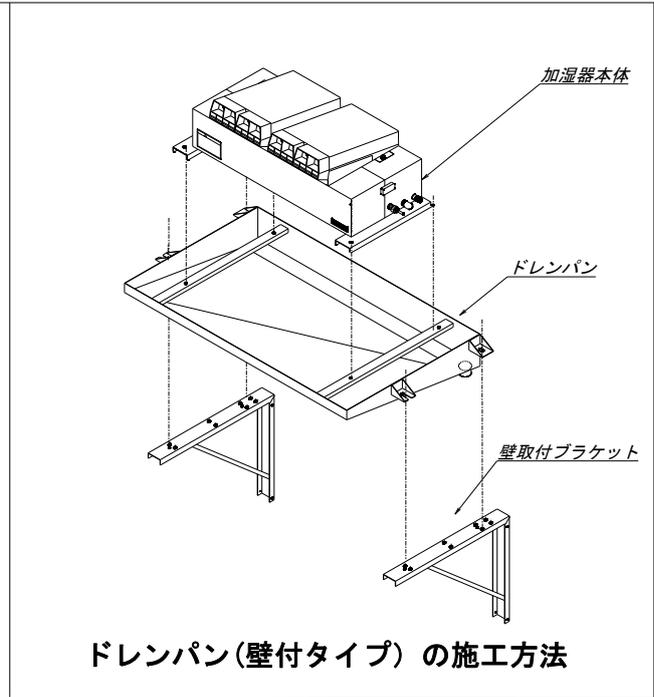
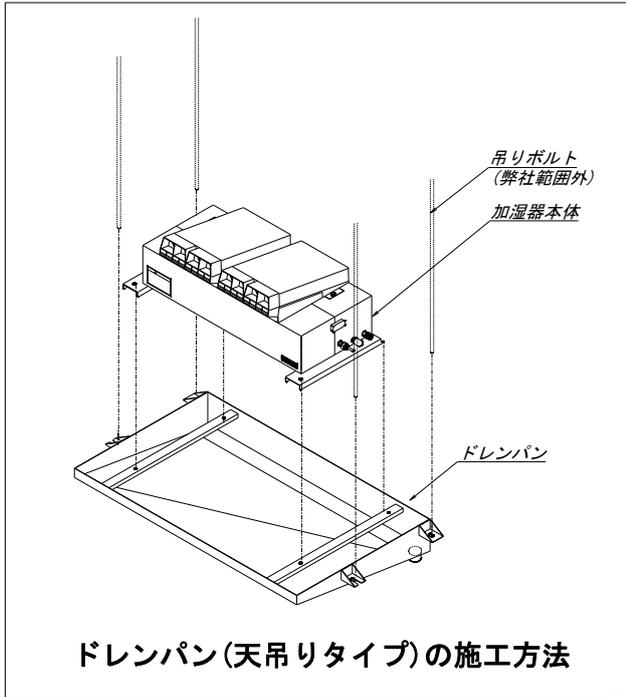
### 5.ドレンパンの取付(別売品)

- ① 【ドレンパン】を、上端が水平になるように設置して下さい。
  - ・天吊りタイプの場合  
最初に【ドレンパン】を吊りボルト(弊社範囲外)に固定して下さい。
  - ・壁付タイプの場合  
最初に壁面のアンカー(M10程度：弊社範囲外)に【壁取付ブラケット】を設置して下さい。(壁面に十分な強度が有る場合はM4タッピングで取り付ける事も可能です。)  
次に、【壁取付ブラケット】の上部に【ドレンパン】を固定して下さい。
- ③ 【ドレンパン】に、【本体ードレンパン取付足】をボルト止めしたあと、そこに【加湿器本体】を取り付けて下さい。
- ④ 【加湿器本体】のオーバーフロー口に、添付の排水L型ゴムを取り付け、ドレンパン内に確実に排水するようにして下さい。
- ⑤ その他の周囲設置条件は“2.取付工事・本体の取付(④を除く)”をご参照願います。

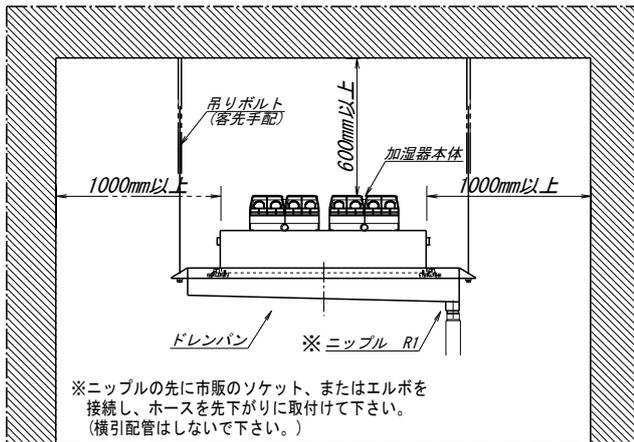
## 注意

- 【ドレンパン】からの排水ホースは、折れ曲がりのないように、また、必ず先下がり状態になるように設置してください。漏水の原因になります。

## ドレンパン設置方法

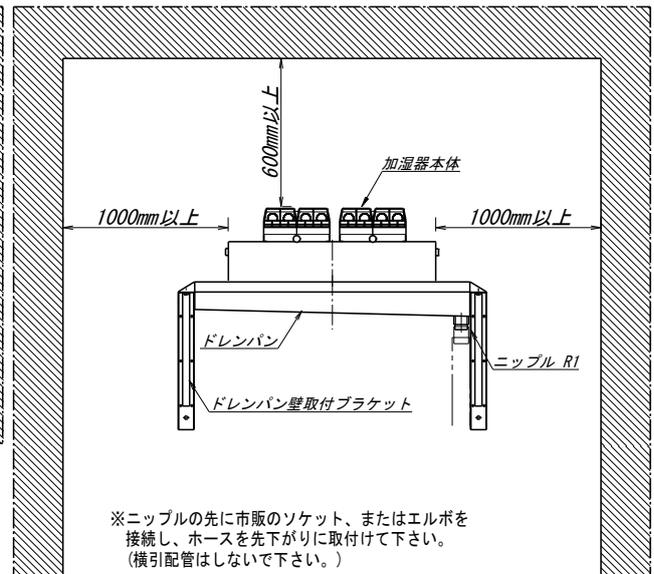


加湿器本体周囲必要最低スペース(天吊りタイプ)

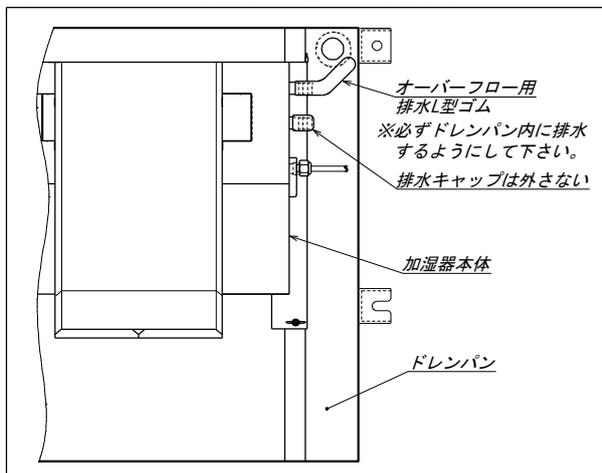


\* 壁面に設置する場合は壁面より100mm以上はなして下さい。

加湿器本体周囲必要最低スペース(壁付タイプ)



## オーバーフロー用排水L型ゴム取付図



## 6.配管工事

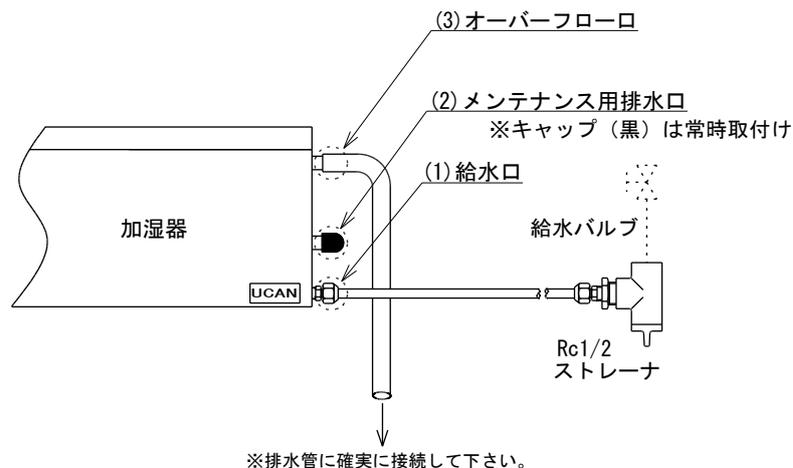
給水は、市水または上水を供給してください。給水圧は、0.03MPa～0.5MPa (0.3～5.0kgf/cm<sup>2</sup>) の範囲内で供給してください。公共の水道に直接接続することは出来ません。自家用受水槽、もしくはシスターンを設けて下さい。冬期0℃以下になる場合では、加湿器水槽内の水の凍結、給・排水系統の凍結防止策を行ってください。

### ※補給水の水質について

超音波加湿器は、水を微細な霧状にして空気中へ噴霧しますので水に溶解している鉱物質はそのまま空気中へ放出され、蒸発とともにそれらは“白い粉”となって空気中に浮遊したり、室内の機器類や壁面などに付着します。コンピューターのディスプレイがチラついたり、クリーンルームに塵埃が浮遊するなどさまざまな不都合を生じることがあります。このような“白い粉”の発生を防止するには、RO純水装置などで処理した水を供給する必要があります。

(弊社製品では、UPRシリーズ、UPWシリーズがこれに該当します。ご検討の際は弊社各営業所までお問い合わせください。また、工場設備の超純水等をご使用になる場合、配管等に悪影響を及ぼす場合があります。弊社までお問い合わせください。)

- ① 本体への給水接続は、1/2インチ管を用います。本体の給水接続口より1m以内に配管して下さい。
- ② 管末には、ストップバルブを取り付けて下さい。
- ③ 付属の銅管及び1/2インチストレナで本体に接続します。なお、本体へ接続する前にしばらくバルブを開き、管の中のゴミを洗い流して下さい。この作業を怠りますと、加湿が正常に行われなかったり、電磁弁のゴミ噛みを生じ、オーバーフローする原因になります。
- ④ オプション排水電磁弁付き以外の排出口にはキャップ（黒）がついています。メンテナンス時以外は絶対に外さないで下さい。キャップが外れていると加湿運転しません。
- ⑤ オーバーフローは正常な運転状態では起こりませんが、本器内の給水電磁弁にゴミが詰まった場合、本体の取り付けが水平でない場合など異常時にオーバーフローすることがあります。付属のビニールホースを排水管に確実に接続して下さい。



▲ 注意  
・機種によって給水口、排水口、オーバーフロー口の位置が異なります。  
・排水口キャップ（黒）が外れていると加湿運転しませんのでメンテナンス時以外は外さないで下さい。

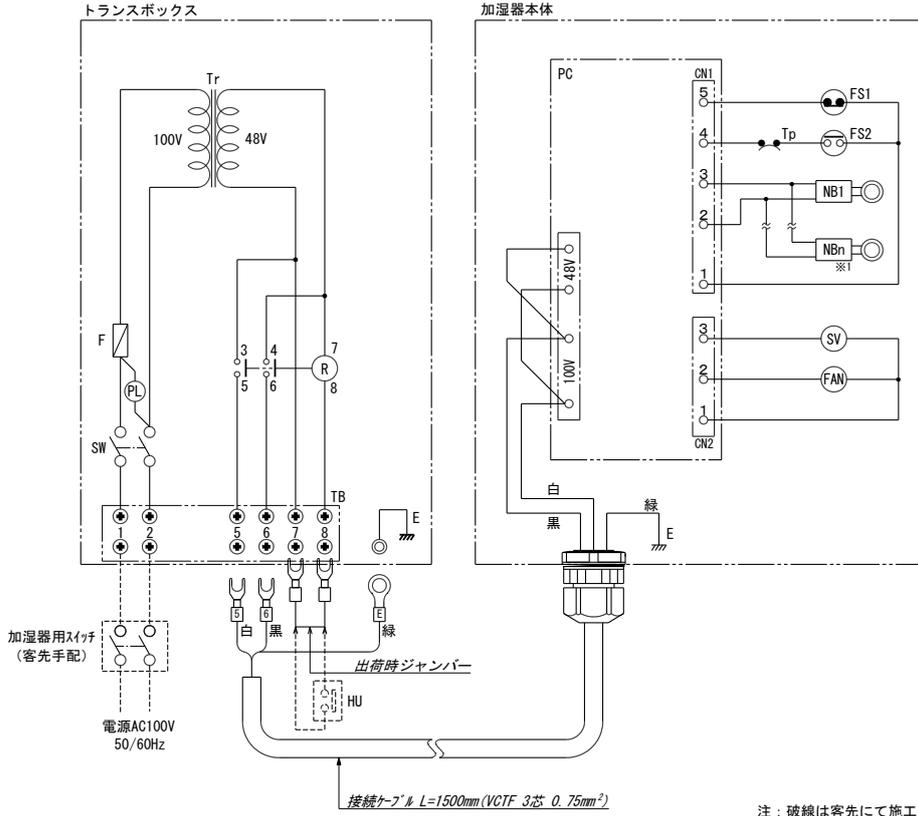
## 7.電気配線工事

- ① 加湿器本体に接続されているケーブル線（芯数は下表参照）を電源トランスボックスの端子台とアースにケーブル線番号を合わせて接続し、ネジを締め付けて下さい。

機種名	芯数
FT-F45～F85	3芯
FT-F125～F245	2芯+3芯
FT-F45～F85UV	6芯
FT-F125～F245UV	2芯+6芯

- ② 本加湿器の標準電源電圧はAC100Vです。電源トランスボックスの端子台①②番に接続してください。
- ③ ヒュミディスタットの配線は、次頁電気配線図をご参照下さい。

# • FT-F45/F85



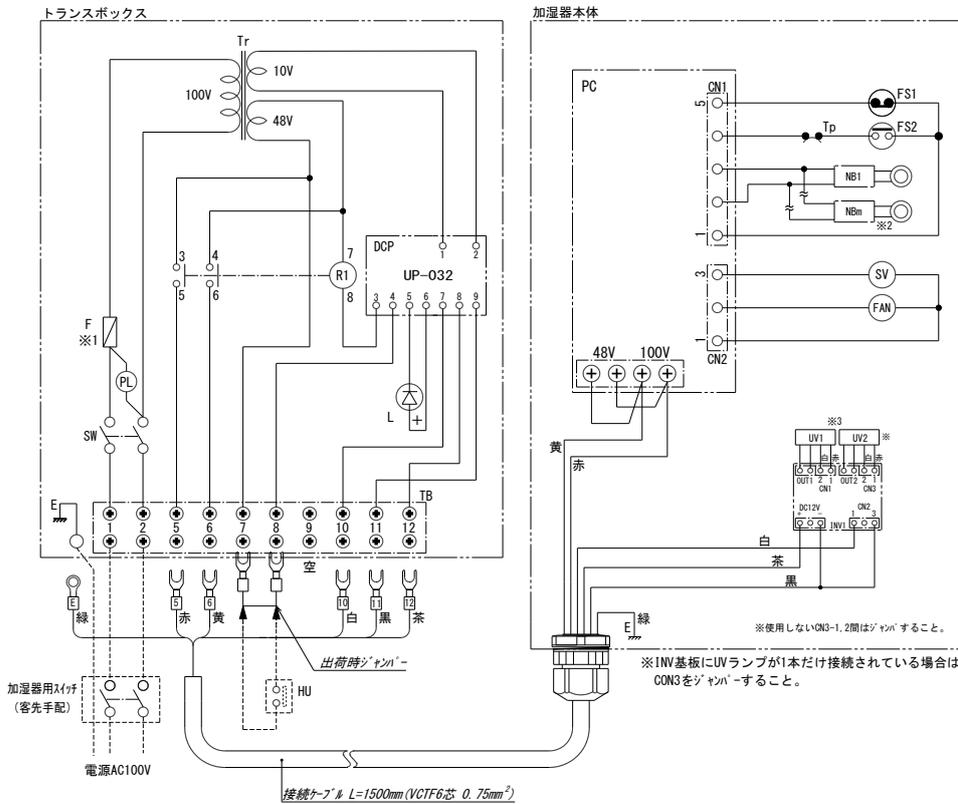
記号	名称	備考
PC	制御基板	UP-003E
FS1	給水用フオートスイッチ	FS-0684A
FS2	加湿用フオートスイッチ	FS-0683A
Tp	サーモプロテクタ	55°C OFF
NB	超音波加湿器ユニット	UP-015A
SV	給水電磁弁	VX212H AC48V
FAN	送風機	AF16108 AC48V
TB	端子台	6P 10A
SW	電源スイッチ	CW-SB21NRKZREF (赤)
PL	電源表示ランプ	SWに内蔵
F	ヒューズ	下表による ※2
Tr	トランス	100V/48V
R	運転用リレー	HH62S AC48V
HU	湿度調節器	(客先手配)

※1, 2 加湿ユニット数量、F容量

型式名	加湿ユニット	F (A)
FT-F45-14	4	3
FT-F85-14	8	5

注：破線は客先にて施工

# FT-F45UV/F85UV



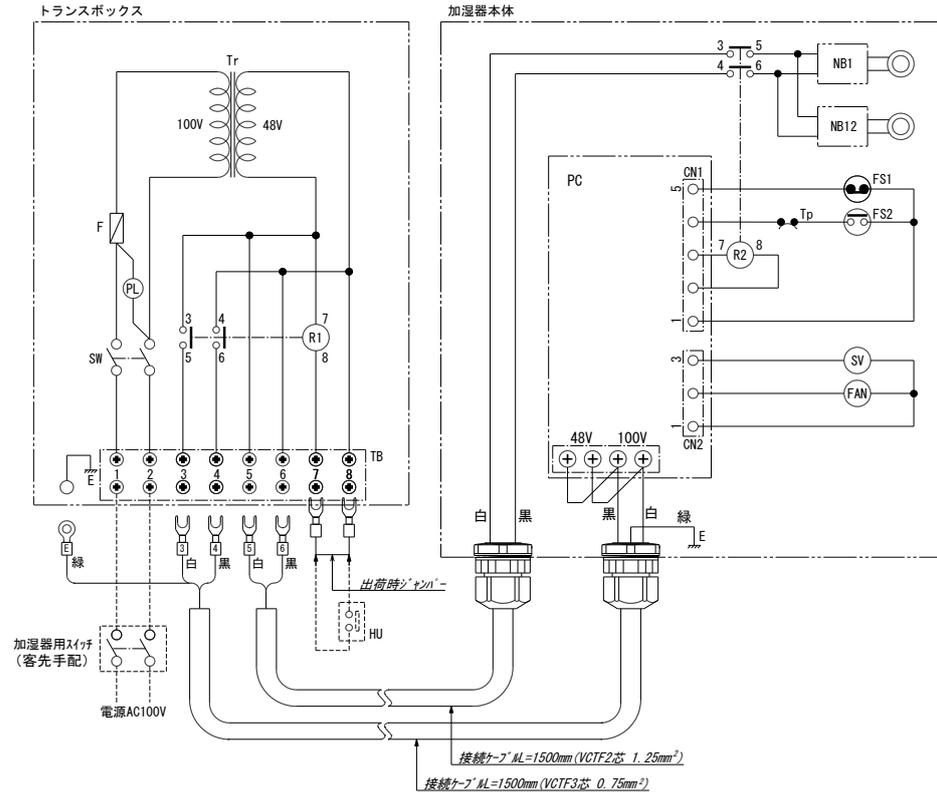
記号	名称	備考
HU	湿度調節器	(客先手配)
FS1	給水用フオートスイッチ	FS-0684A
FS2	加湿用フオートスイッチ	FS-0683A
R1	運転用リレー	HH62S AC48V
PC	制御基板	UP-003E
UV	紫外線ランプ	GUL1.2
FAN	送風機	AF16108R AC48V
SV	給水電磁弁	VX212HZ1AXB
NB	超音波加湿器ユニット	UP-015A
TB	端子台	10P 10A
Tp	サーモプロテクタ	55°C OFF
Tr	トランス	100V/48V/10V
L	UVランプ表示ランプ	LED
F	ヒューズ	下表による ※1
SW	電源スイッチ	CW-SB21NRKZREF (赤)
PL	電源表示ランプ	SWに内蔵
INV	インバータ	UP-025
DCP	DC電源	UP-032

※1, 2, 3 F1容量、振動子数、UVランプ、センサー数

型式	F1 (A)	振動子数	UVランプ	センサー
FT-F45UV-14	3	4	1	1
FT-F85UV-14	5	8	2	2

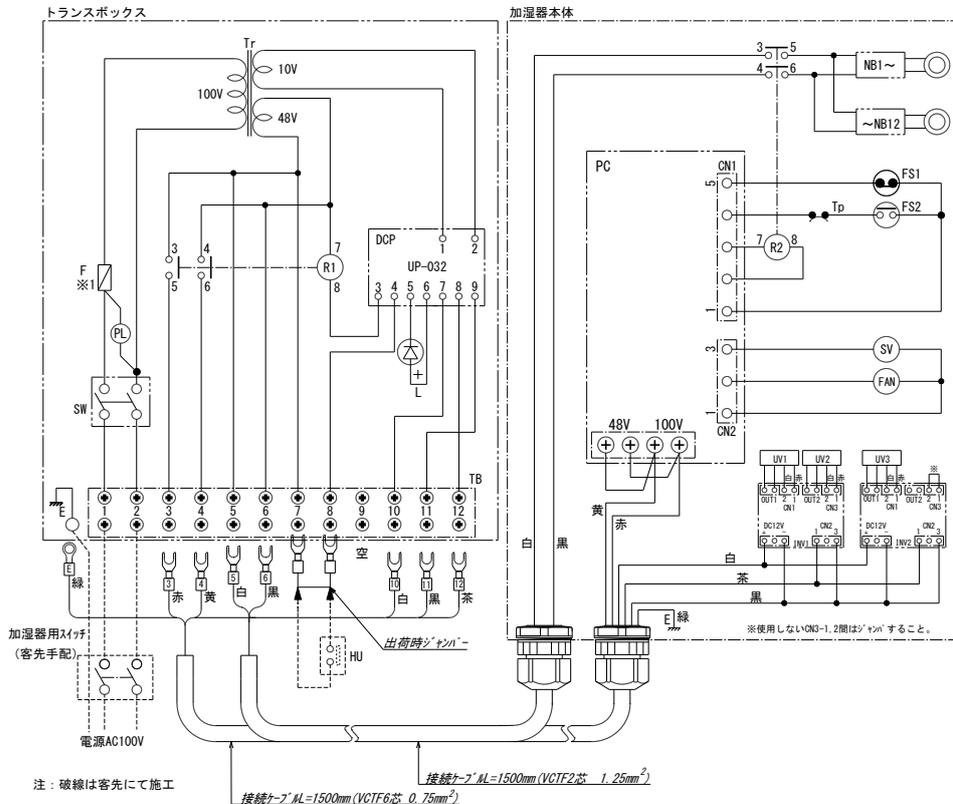
※使用しないCN3-1, 2間はジャンプすること。  
※INV基板にUVランプが1本だけ接続されている場合はCN3をジャンプすること。

# FT-F125



記号	名称	備考
PC	制御基板	UP-003E
FS1	給水用70-トスイチ	FS-0684A
FS2	加湿用70-トスイチ	FS-0683A
Tp	サーモプロテクタ	55°C OFF
NB	超音波加湿器ユニット	UP-015A
SV	給水電磁弁	VX212H AC48V
FAN	送風機	AF16108 AC48V
TB	端子台	8P 10A
SW	電源スイッチ	CW-SB21NRKZREF (赤)
PL	電源表示ランプ	SWに内蔵
F	ヒューズ	8A
Tr	トランス	100V/48V
R1	運転用リレー	HH62S AC48V
R2	加湿用リレー	HH62S AC48V
HU	湿度調節器	(客先手配)

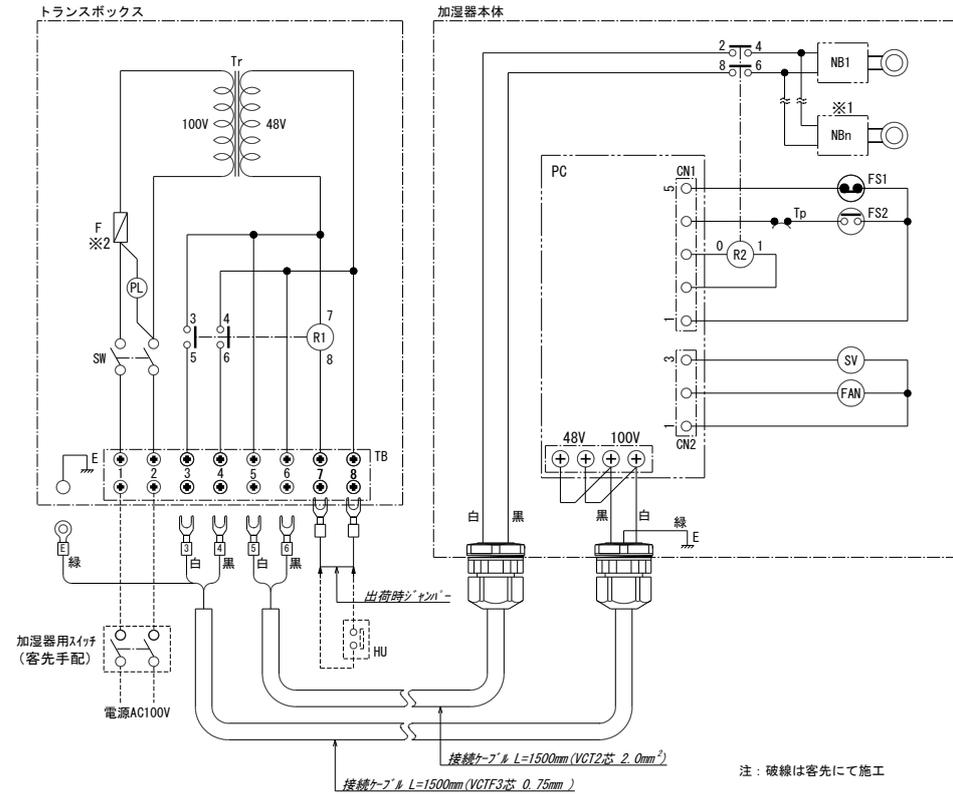
# FT-F125UV



記号	名称	備考
HU	湿度調節器	(客先手配)
FS1	給水用70-トスイチ	FS-0684A
FS2	加湿用70-トスイチ	FS-0683A
R1	運転用リレー	HH62S AC48V
PC	制御基板	UP-003E
UV	紫外線ランプ	GUL1.2
FAN	送風機	AF16108 AC48V
SV	給水電磁弁	VX212H AC48V
NB	超音波加湿器ユニット	UP-015A
TB	端子台	12P 10A
Tp	サーモプロテクタ	55°C OFF
Tr	トランス	100V/48V/10V
L	UV2表示ランプ	LED
F	ヒューズ	8A
SW	電源スイッチ	CW-SB21NRKZREF (赤)
PL	電源表示ランプ	SWに内蔵
INV	インバータ	UP-025
DCP	DC電源	UP-032
R2	加湿用リレー	HH62S AC48V

注：破線は客先にて施工

# FT-F165~F245

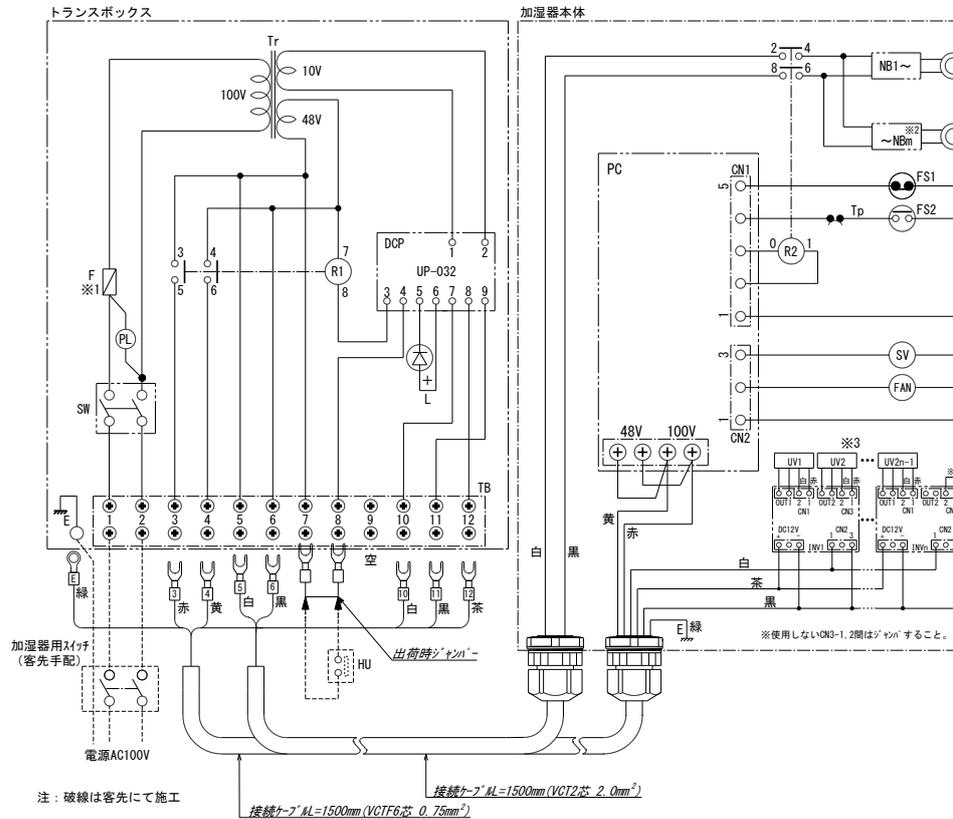


記号	名	称	備	考
PC	制御基板		UP-003E	
FS1	給水用フロースイッチ		FS-0684A	
FS2	加湿用フロースイッチ		FS-0683A	
Tp	サーモプロテクタ		55°C OFF	
NB	超音波加湿ユニット		UP-015A	
SV	給水電磁弁		VX212H AC48V	
FAN	送風機		AF16108 AC48V	
TB	端子台		8P 20A	
PL	電源表示ランプ		SWに内蔵	
F	ヒューズ		下表による	
Tr	トランス		100V/48V	
R1	運転用リレー		HH62S AC48V	
R2	加湿用リレー		G7L-2A-BUB AC48V	
HU	湿度調節器		(客先手配)	

※1, ※2 加湿ユニット数量、F容量

型 式	加湿ユニット数	F (A)
FT-F165-14	16	10
FT-F205-14	20	15
FT-F245-14	24	15

# FT-F165UV~F245UV



記号	名	称	備	考
HU	湿度調節器		(客先手配) 接点容量2A以上	
FS1	給水用フロースイッチ		FS-0684A	
FS2	加湿用フロースイッチ		FS-0683A	
R1	運転用リレー		HH62S AC48V	
PC	制御基板		UP-003E	
UV	紫外線ランプ		GUL1.2	
FAN	送風機		AF16108 AC48V	
SV	給水電磁弁		VX212H AC48V	
NB	超音波加湿ユニット		UP-015A	
TB	端子台		12P 20A	
Tp	サーモプロテクタ		55°C OFF	
Tr	トランス		100V/48V/10V	
L	UVランプ表示ランプ		LED	
F	ヒューズ		下表による ※1	
SW	電源スイッチ		CW-SB21NRKZREF (赤)	
PL	電源表示ランプ		SWに内蔵	
INV	インバータ		UP-025	
DCP	DC電源		UP-032	
R2	加湿用リレー		G7L-2A-BUB AC48V	

※1, 2 F1容量、振動子数

型 式	F (A)	加湿ユニット数
FT-F165UV-14	10	16
FT-F205UV-14	15	20
FT-F245UV-14	15	24

※3 UVランプ数、センサー数、インバータ基板数

型 式	UVランプ	センサー	インバータ基板
FT-F165UV-14	4	4	2
FT-F205UV-14	5	5	3
FT-F245UV-14	6	6	3

## 8.運転方法

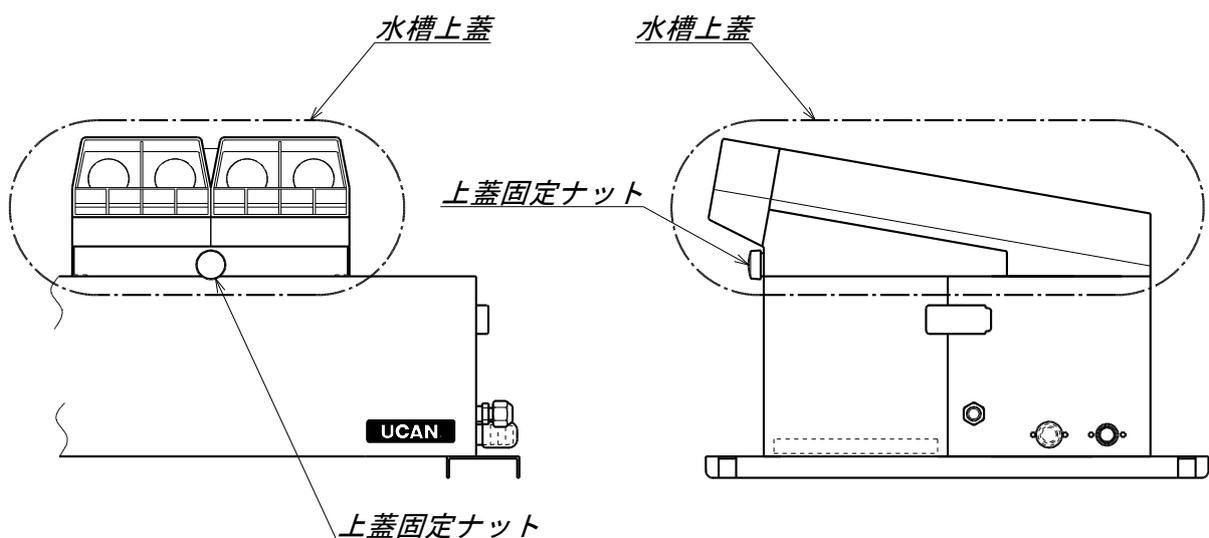
- ① 運転開始前に電源電圧（AC100V）は正常か、給水圧(0.03～0.5Mpa)は正しいかを確認して下さい。
- ② 湿度調節器を使用しているときはヒュミディスタットのダイヤルを希望する相対湿度に合わせて下さい。
- ③ 電源スイッチを入れて下さい。次の要領で自動運転を行います。
  - 1) 電磁弁が開き、給水が始まります。
  - 2) 所定水位に達すると、ファンが回転し、加湿が始まります。
  - 3) 水位が40mm程度に達すると、電磁弁が閉じ、給水はストップします。
  - 4) 加湿により、水位が減少すると自動的に電磁弁が開き、給水を行います。運転中はこの動作が繰り返されます。
  - 5) 万一、断水した場合、空運転防止用フロートスイッチが作動し、運転はストップします。但し、給水電磁弁は電源を切らない限り、開いた状態になっています。

## 9.加湿器本体の分解方法

### ⚠ 注意

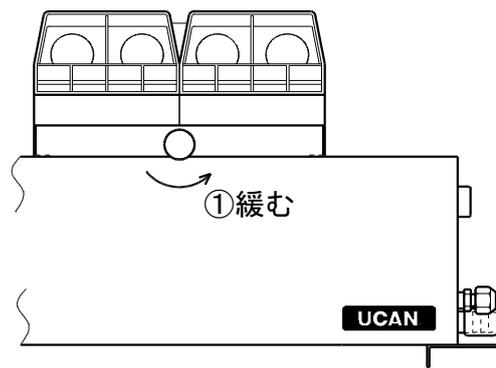
- 必ず加湿器用ブレーカを切り、給水バルブを閉めてから行って下さい。
- 本体を分解する際は、あらかじめ水槽内の水を抜いてから行ってください。  
※排水は、本体側面の排水口キャップをはずして行います。バケツやバットの様なもので受けて行ってください。
- 水槽上蓋は、落とすと割れてしまいますので、必ずはずしてから分解を行ってください。

【水槽上蓋】：噴霧ノズル清掃、水槽内清掃、フロート清掃、振動子表面清掃、UVランプ清掃時



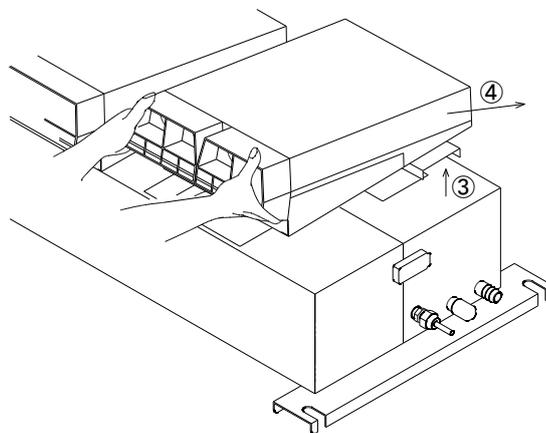
「水槽上蓋」は、「上蓋固定ナット」で固定されています。  
以下の手順で、「水槽上蓋」を外すことができます。

1.上蓋固定ナットを2回転程度緩める。



① 上蓋固定ナットをゆるめる(2回転程度)。

2.水槽上蓋を取り外す。

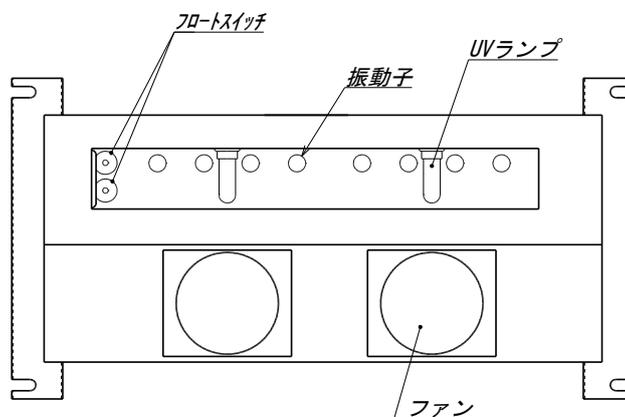


② 噴霧ノズルを両手で持ち、右側を少し持ち上げる。

③ 「水槽上蓋」を右上方に引き抜いて取り外す。

※結露水が落ちるので、水槽内である程度水を切ってから取り外してください。

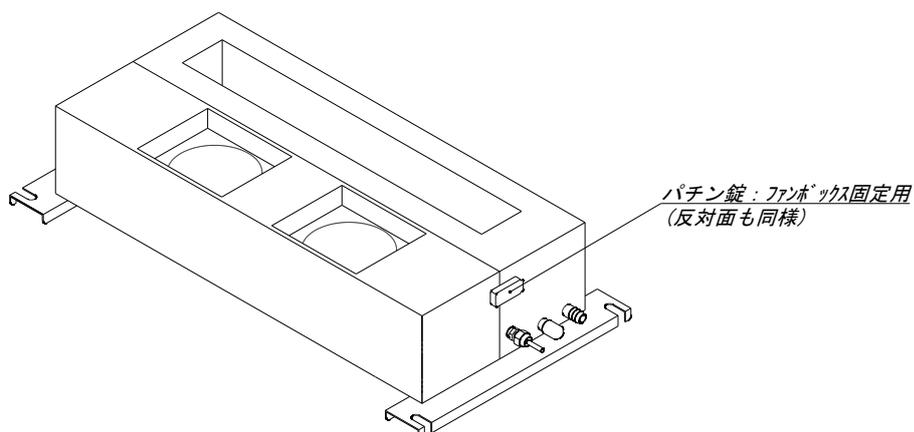
※水槽内(振動子、フロートスイッチ、UVランプ：搭載機種のみ)があらわになり、清掃が可能になります。



天面図

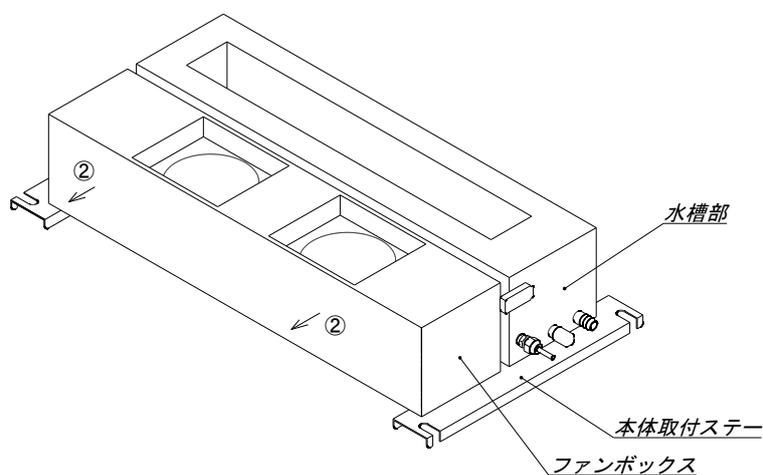
【ファンボックス】：振動子交換、フロートスイッチ交換、給水電磁弁のメンテナンスなど。

1.ファンボックスを固定しているパチン錠をはずす。

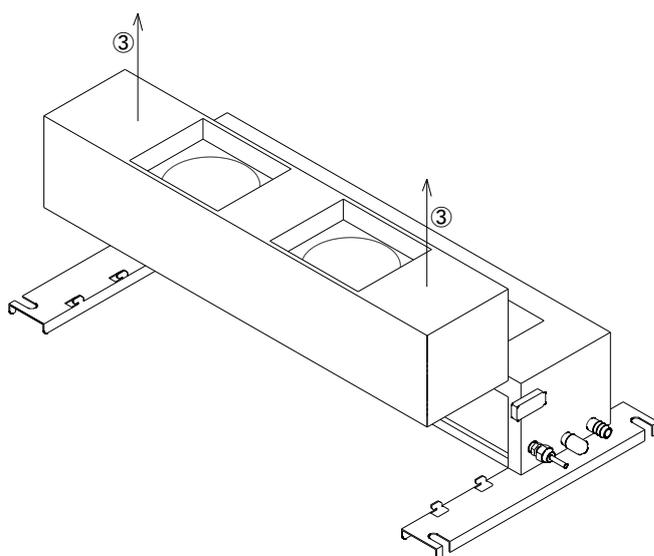


本体両側面のパチン錠を外す。

2.ファンボックスを手前にスライドする。

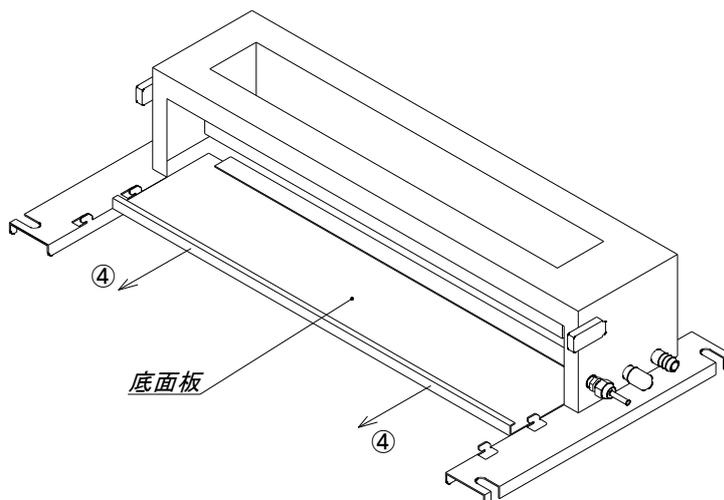


3.ファンボックスを上方に引きだして取り外す。



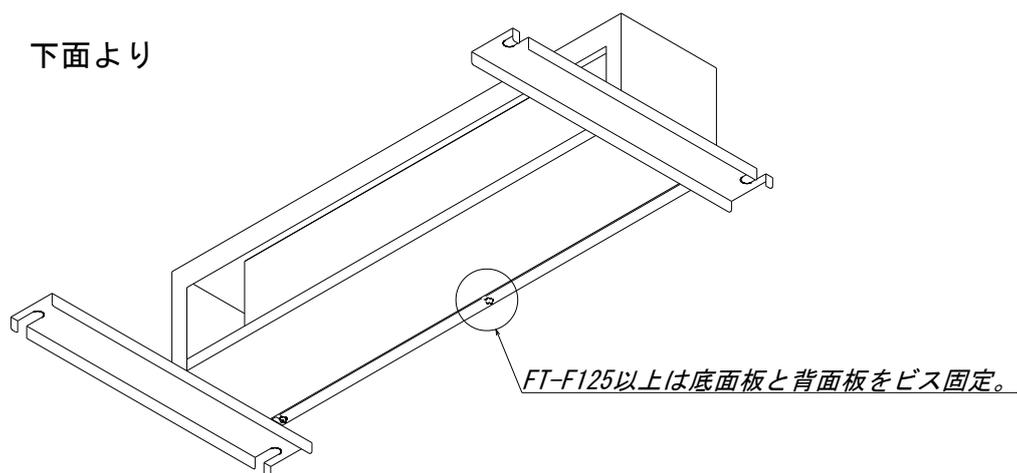
※「ファンボックス」を、「水槽部」上に仮置きし、中継部のメイトピン（2箇所）を取り外してください。（2か所のメイトピンに極性はありません。）  
メイトピンを外した後、ファンボックスを安定した場所に移してください。

#### 4.「底面板」をはずす。



FT-F45～F85の「底面板」はビス固定されていないので、そのまま矢印方向に引き出してください。

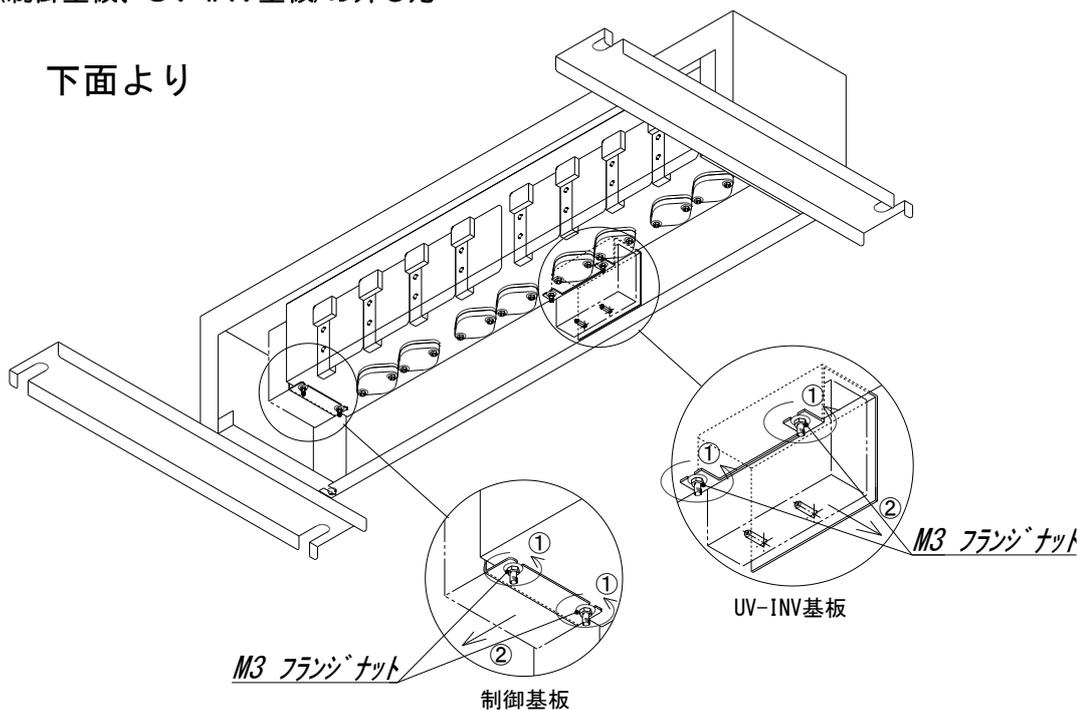
※FT-F125以上は底面板と背面板をビス固定しています。底面側のビスを1～2回転ゆるめしてから、底面板を引き出してください。



ここまでで、「振動子交換」「振動子基板交換」「フロートスイッチ交換」「給水電磁弁のメンテナンス」が可能になります。

## 基板(制御基板、UV-INV基板)の外し方

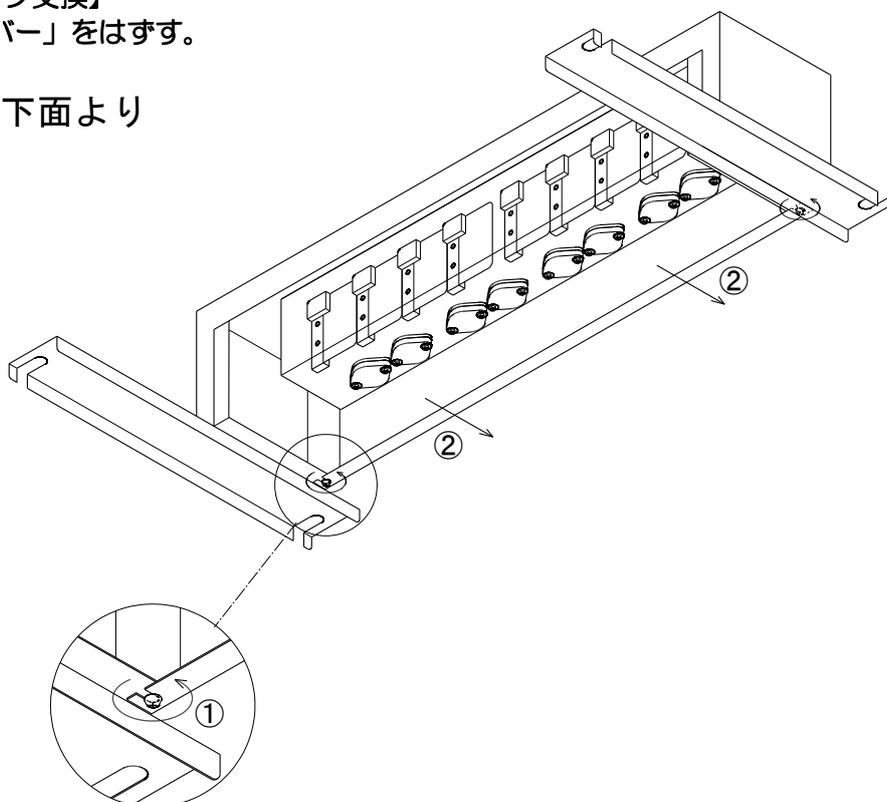
下面より



- ① 基板を固定しているM3フランジナットをゆるめる(2回転程度)。  
※フランジナットをはずす必要はありません。
- ② 基板を矢印方向にスライドさせて引き抜く。
- ③ 適宜コネクタ類を取り外す。

【UVランプ交換】  
「背面カバー」をはずす。

下面より

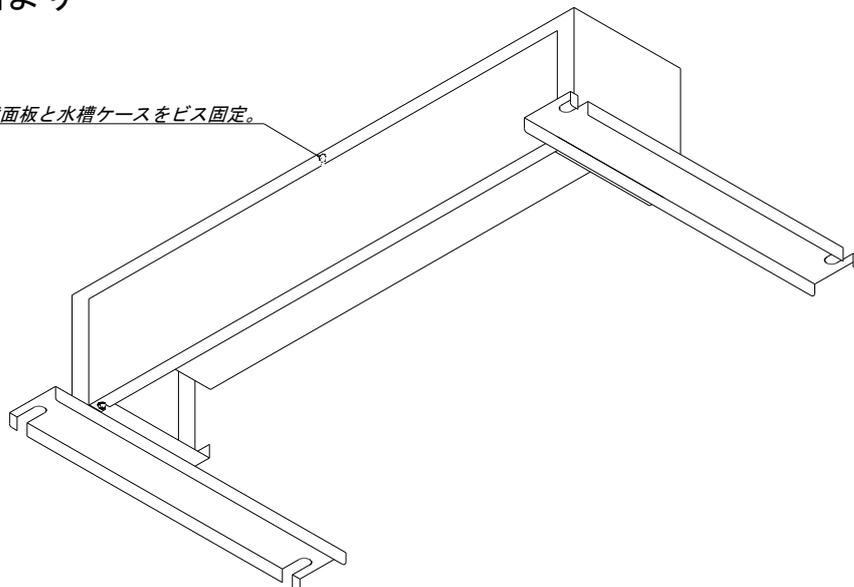


- ① 「背面カバー」両端を固定しているM4ネジをはずす。
- ② 「背面カバー」を矢印方向にずらしてとりはずす。

※FT-F125以上のサイズのものは、背面板と水槽ケースをビス固定しています。  
あらかじめ、背面側のビスを2〜3回転ゆるめてから、上記『背面カバーをはずす。』の要領で背面カバーを取り外してください。

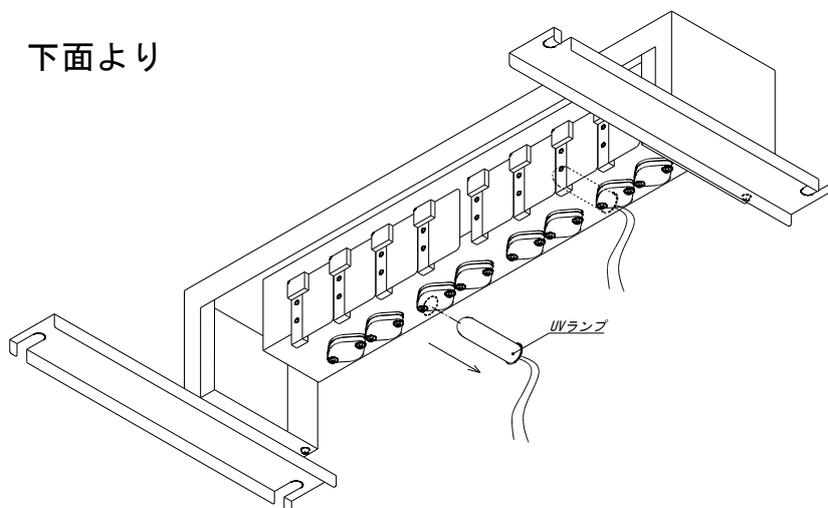
### 背面より

FT-F125以上は背面板と水槽ケースをビス固定。  
1〜2箇所



「UVランプ」を引き抜く。

### 下面より

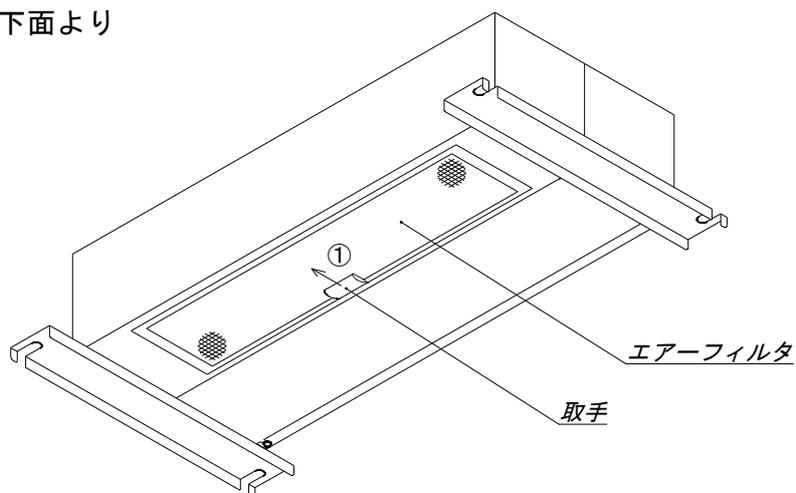


※ランプを交換する際は、差し込み時にシールパッキンがよじれたりずれたりしない様にご注意ください。

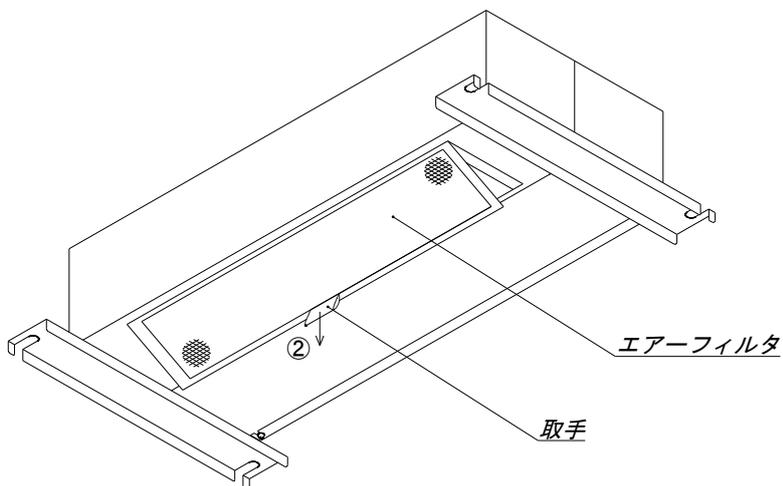
## 【エアフィルタ】

1. エアフィルタの取手をつかみ、前方にスライドする。

下面より



2. 取手を下に引き下げ、エアフィルタを外す。



## ■エアフィルタの手入れ

手ではたくか、圧搾空気で付着物を除去してください。汚れのひどい場合は、中性洗剤液で押し洗いしてください（スペアのエアフィルタは別売りでお求めになれます）。

## 10.各部の保守・点検方法

### ■水槽・振動子の手入れ

- ① 電源スイッチを切って下さい。
- ② 水槽上蓋を取り外します。
- ③ 排水を行い、水槽の汚れを綺麗なウェスなどで拭き取ります。
- ④ 振動子（丸い金属板）の表面は柔らかい布などで汚れを拭き取ります。決してドライバーなど固いもので削ったり、叩いたりしないで下さい。
- ⑤ 汚れを取り除いた後、電源スイッチを入れて給水し、もう一度排水して水槽内部をクリーンにしてください。



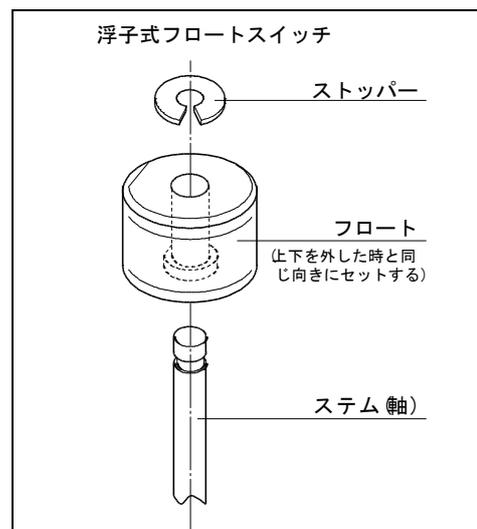
### ⚠ 注意

- 水槽内は水質や空気中のホコリにより汚れやすいので、保健衛生上定期的に（3日に1度）清掃を行って下さい。

### ■フロートスイッチの手入れ

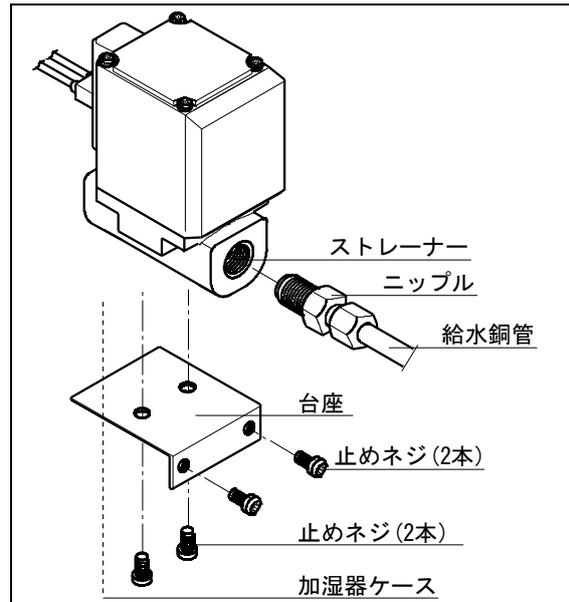
FT-Fシリーズは浮子式フロートスイッチを使用します。

- ① 通常はフロートを指で上下に動かし、スムーズに動けばOKですが、念のため、軸部、フロート部の汚れは丁寧に拭いて下さい。
- ② ストッパーを外し、軸フロートを拭いて掃除して下さい。
- ③ フロートは、上下の向きが決まっています。見落としの無いように、外す前に良く確認してから行って下さい。  
(フロート下部に磁石が来ます。)



## ■電磁弁の手入れ

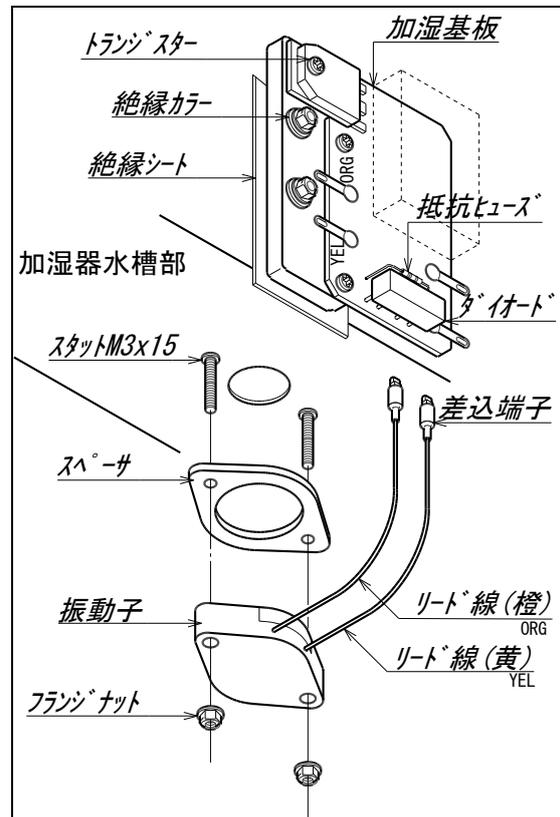
- ① 給水バルブを閉め、電源を切ってから作業にかかって下さい。
- ② スパナで給水銅管、及びニップルを外します。
- ③ 電磁弁を留めてある2本のネジを外し、電磁弁を取り出します。
- ④ ストレーナにゴミが詰まっていれば、それを取り除いて下さい。
- ⑤ 電磁弁の故障の場合は交換して下さい。
- ⑥ 元通りに組み立てて下さい。



## ■振動子の点検・交換の仕方

水槽底部の振動子（丸い金属）は、長期間使用するうちに経年劣化し、霧化量が減少していきます。新しい振動子に交換することで、加湿量が蘇ります。

- ① 振動子を留めている2ヶのフランジナットを外して下さい。（3mmナット用のボックスドライバ使用）
- ② 基板に差し込んである黄色と橙色のリード線を抜き、振動子を取り外します。
- ③ 新しい振動子に交換し、フランジナットを締めます。このとき、片締にならないよう左右バランス良く締めて下さい。
- ④ リード線の差込端子をYEL（黄色）、ORG（橙色）の表示通り差し込みます。



## 注意

- 振動子を接続しないで運転させると、加湿基板のヒューズ抵抗が焼損します。

## ■UVランプの手入れ（UVランプ搭載機種のみ）

ランプ外管（石英ガラス管）の汚れを柔らかい布などで拭き取ります。決してドライバーなど固いもので削ったり、叩いたりしないで下さい。ガラス管が破損することがあります。

## ■UVランプの交換方法

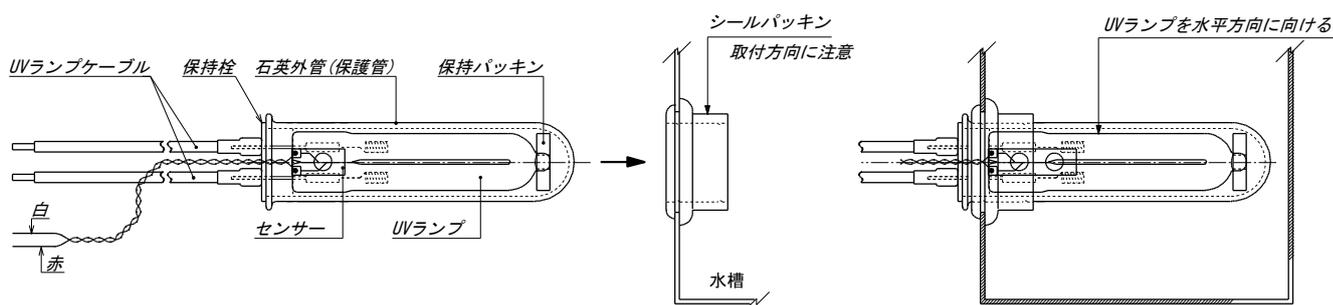
経年劣化によりランプが光量不足になると、センサーが働き加湿器本体を停止させます。それと同時に、トランスボックスの「UV不良表示ランプ」が点灯しますので、その際は最寄りの営業所にご連絡下さい（各営業所の連絡先は裏表紙に記載してあります）。

※UVランプの寿命は約10,000時間です。

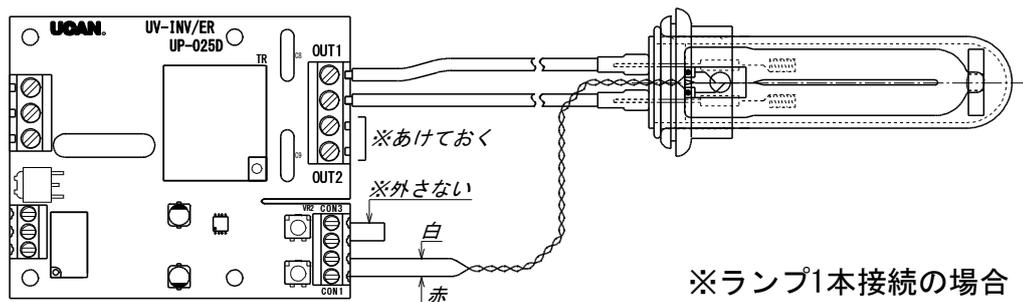
※弊社から交換部品としてUVランプを出荷する際は、①石英外管(保護管)②保持パッキン③センサー④保持栓⑤ケーブルを組み合わせたセットで供給いたします。バラ売りはできませんのであしからずご了承ください。

### 【UVランプ交換手順】

- ①「UV-INV基板」から、既設UVランプの電源ケーブルおよびセンサーのケーブルを抜きます。
- ②「UVランプ」を石英外管ごと水槽部から抜きとります。
- ③新しい「UVランプ」を水槽部シールパッキンに挿入します。このときシールパッキンがよじれたり外れたりしないようご注意ください。  
※シールパッキンにキズや劣化がある場合は、新品に交換して下さい。漏水の原因になります。
- ④UVランプが水平になるように調整して下さい。



- ⑤ UVランプケーブルを“UV-INV基板”のOUT1またはOUT2に接続します。  
接続方法：端子台の上部にあるネジをゆるめ、ケーブルを差し込み、ネジを締め付けます。  
※UVランプケーブルには極性はありません。
- ⑥同様に、センサーからのケーブルを“UV-INV基板”のCON1またはCON3に接続します。  
※センサーには極性がありますので、下図を参照の上、赤・白線の接続位置を間違えないように接続して下さい。また、わたり線がある場合はそのままにしておいて下さい。



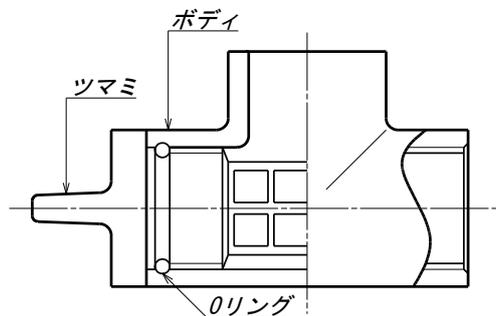
## ■ストレーナの手入れ

- ① ツマミを反時計方向に回し、ストレーナを取り出します。
- ② ストレーナ底部にゴミがたまっていれば、それを取り除いて下さい。
- ③ 元通りに組み立てます。



## 注意

- 試運転前・メンテナンス時・清掃時などにおいては、キャップをしっかりと締め切り、ツマミとボディの間が密着していることを確認してください。
- キャップを絞め込むときには、ストレーナ内を水抜きした状態で、Oリングがよじれないように注意して絞め込みしてください。（水圧が原因でOリングが変形し、水漏れの原因となる場合があります。）



## 11.電源トランスの点検方法

危険防止のため、電源供給元スイッチを切ってから作業を進めて下さい。

- ① トランスボックスのカバーを外します。
- ② ヒューズを点検して下さい。切れている場合は、スイッチ取付側板内側にテープで留めてある予備のヒューズと交換して下さい。
- ③ サージフィルタ（バリスタ）が焼損又は破損（亀裂等）していないか点検して下さい。
- ④ メガーテスターで絶縁抵抗を測定します。端子台に接続されている本体への接続ケーブルを取り外し、本体との関係を遮断します。接地端子又はケースに測定リード線の片側を、他のリード線を端子台番号①②番に接続し、各々テスターの指示が100MΩ以上であることを確認して下さい。
- ⑤ 電源元スイッチ及びトランスボックスのスイッチを入れ、電圧が正常かどうか、端子台のカバーを外し、各端子をテスターで計測して下さい。ヒューズが切れていた場合、加湿器本体にも原因があります（次項参照）。

## 12.トラブルシューティング

故障したとき、まず先に点検することは・・・

故障？	チェック	処置
給水されない	●給水バルブは開いていますか	●バルブを開く
加湿器が作動しない	●電気はきていますか ●トランスボックスのスイッチはONになっていますか	●テスターでチェックする ●スイッチを入れる
スイッチを入れても加湿器が作動しない	●ブレーカは作動していますか？ ●トランスのヒューズは切れていませんか ●湿度調節器の目盛は正常ですか、ONになっていますか	●ブレーカを確認する ●切れていれば、付属のスペアと交換する ●ダイヤルを高い湿度方向へ回す

以上を点検し、それでも加湿しない場合は、原因を究明し、対処する必要があります。

### ■故障の原因

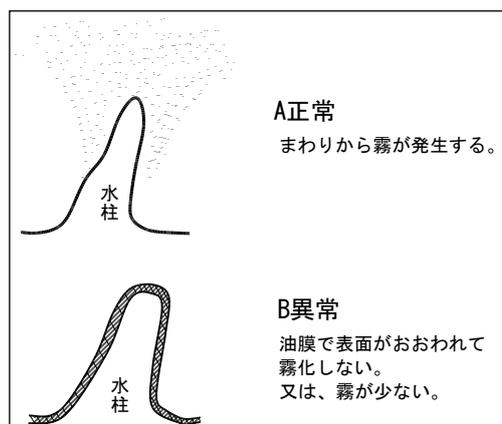
- ①霧化量が減少してきた状態で長時間運転を続けた場合、加湿ユニットの基板が故障することがあります。
- ②横倒しや逆さまな状態で通電すると、フロートスイッチが入り、空運転してしまい、加湿ユニット基板が故障します。
- ③加湿量よりも給水量が少ない場合、ON-OFFを頻繁に繰り返す、故障することがあります。給水入口圧力は最低0.03MPa(0.3kgf/cm<sup>2</sup>)以上でご支給下さい。
- ④トランスへの電圧を間違え、100V仕様のところへ200Vを通電してしまったとき。(トランスのサージフィルタが破損します)
- ⑤落雷など、大きなサージが入ったとき。
- ⑥基板の回路チェックにメガテスターを使用したとき。
- ⑦砂、石、鉄粉などが水槽に入ったままの状態、長時間運転を続けた場合。
- ⑧電磁弁にゴミがかみ、オーバーフローしてしまう場合があります。

### ■対処の仕方

#### ●霧化量が減少してきた場合（故障の原因①の場合）

<設置後まもなくの時>

- ①水槽内の水に油成分、配管用接着剤などが混入している場合は、霧化が正常に行われません。電源を切ってから一度排水し、中性洗剤、スポンジタワシで水槽内を清掃後、再度給水して下さい。泡が消えるまで排水を続けます。
- ②電源電圧が低下していないかチェックして下さい。  
<長時間使用後>
- ①振動子の表面に汚れがたまっていないか調べて下さい。汚れている場合には、柔らかい布などで拭き取って下さい。
- ②振動子の表面を覆っているメッキがはがれていたり、傷ついている場合は振動子の寿命です。新しい振動子と交換して下さい。



# 13.仕様

## 本体外形仕様図

FT-F45(UV)/F85(UV)/F125(UV)/F165(UV)/F205(UV)/F245(UV)

番号	品名	備考
①	本体水槽部	SUS304
②	ファンボックス	SUS304
③	電源ケーブル	VCTF
④	取付ステー	SUS304
⑤	噴霧ノズル	ABS樹脂
⑥	上蓋カバー	SUS304
⑦	ダクト部	SUS304
⑧	上蓋固定ナット	白ユリヤ
⑨	パチン錠	SUS304
⑩	Eアフィリタ	P.パニム
⑪	給水接続口	φ6.35 L=357/7
⑫	排水口(キャップ付)	ABS樹脂
⑬	オーバーフロー口	ABS樹脂
⑭	給水銅管	Cu(BS)
⑮	給水ストレーナ	BC
⑯	給水バルブ	(客先手配)

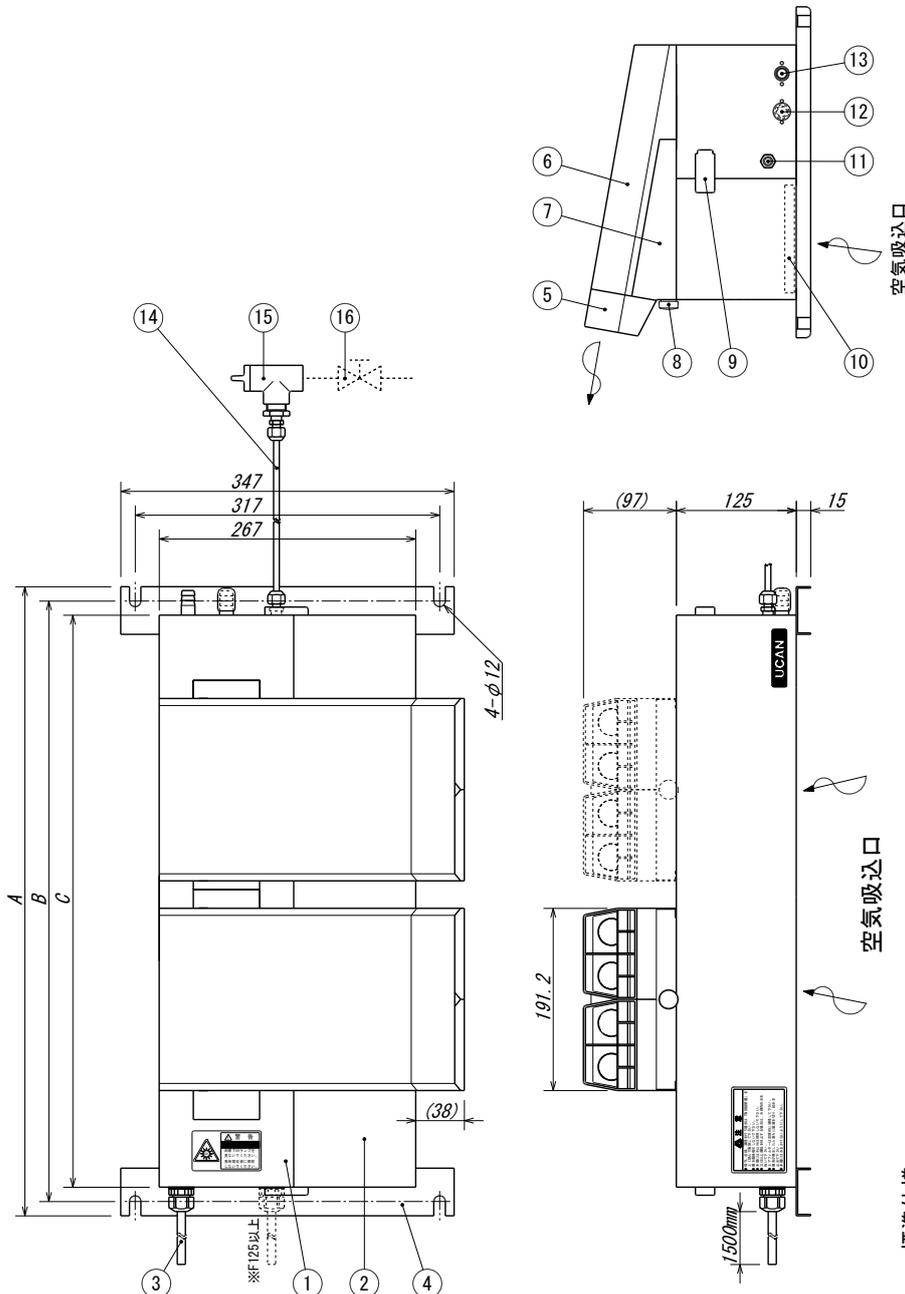
### 標準付属品

品名	規格
給水銅管	φ6.35 L=600×1, Cu(BS)
オーバーフローホース	φ12×φ16 L=1000×1
給水ストレーナ	Rc1/2×1, BC

### 機種別寸法表

機種	A	B	C
FT-F45(UV)	440	410	380
FT-F85(UV)	660	630	600
FT-F125(UV)	880	850	820
FT-F165(UV)	1100	1070	1040
FT-F205(UV)	1320	1290	1260
FT-F245(UV)	1540	1510	1480

給水方式	給水圧力	安全装置	周囲条件	振動子交換
● 配管による自動給水	0.03~0.5 MPa (0.3~5.0 kgf/cm <sup>2</sup> )	● 70~120℃による空運転防止 ● 過電流防止用ロース ● 過昇温度防止用サーキットブレーカ	5℃~40℃ 凍結しないこと 90%RH以下 のこ	累積 5000時間 程度

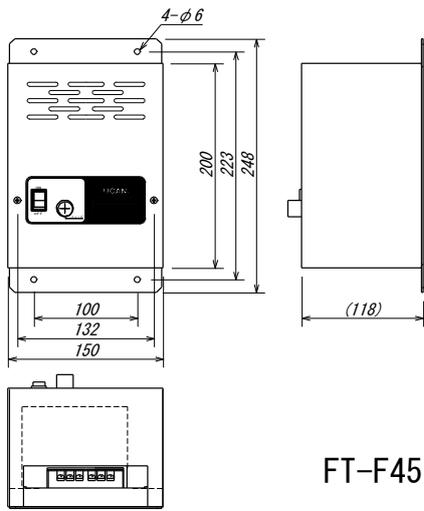


標準仕様

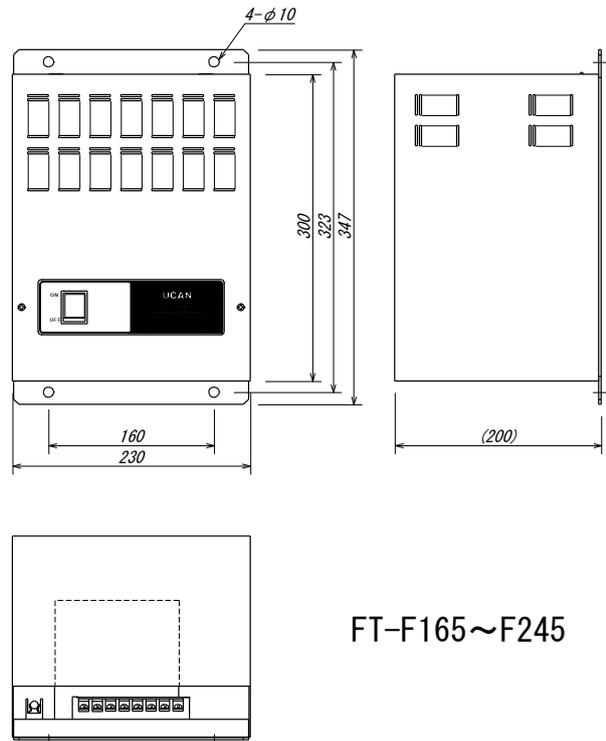
型式	加湿量 (L/h)	加湿ユニット数	UVランプ数 ※(UV種のみのみ)	電源	消費電力 (VA)		重量 (kg)		風量 (m <sup>3</sup> /min) (50/60Hz)
					標準	UV仕様	標準	UV仕様	
FT-F45(UV)	2.0	4	1	単相 AC100V (AC200V)	158	162	7.5	5.5	3.3/3.7
FT-F85(UV)	4.0	8	2	単相 AC100V (AC200V)	303	307	11.3	8.0	6.6/7.4
FT-F125(UV)	6.0	12	3	単相 AC100V (AC200V)	449	456	15.1	10.0	9.9/11.1
FT-F165(UV)	8.0	16	4	単相 AC100V (AC200V)	594	601	18.9	11.5	13.2/14.8
FT-F205(UV)	10.0	20	5	単相 AC100V (AC200V)	739	750	22.7	15.0	16.5/18.5
FT-F245(UV)	12.0	24	6	単相 AC100V (AC200V)	884	895	26.5	17.5	19.8/22.2

注) 本体外部破線は客先にて施工

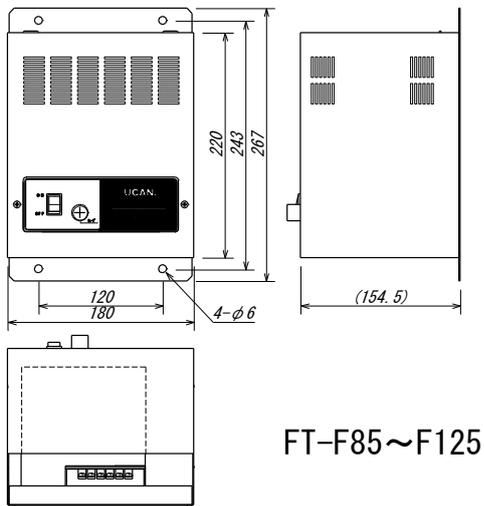
# トランスボックス外形寸法図



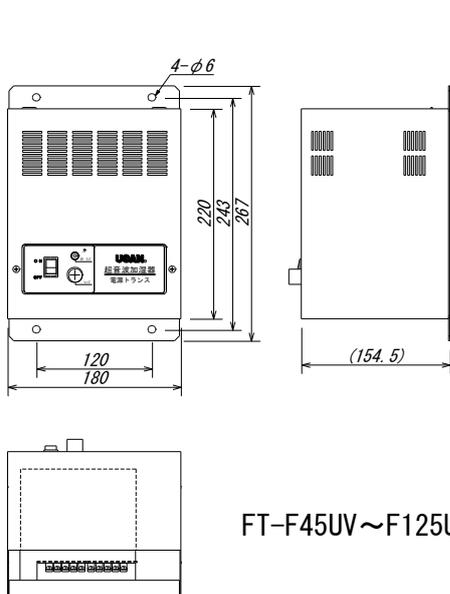
FT-F45



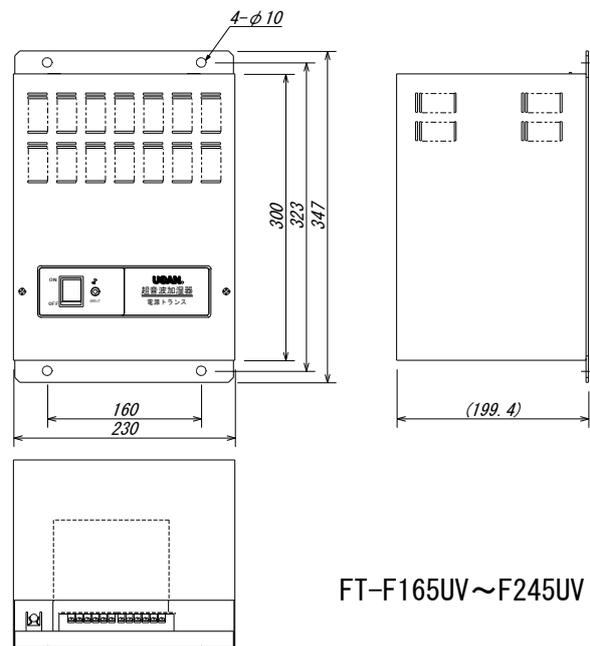
FT-F165~F245



FT-F85~F125



FT-F45UV~F125UV



FT-F165UV~F245UV

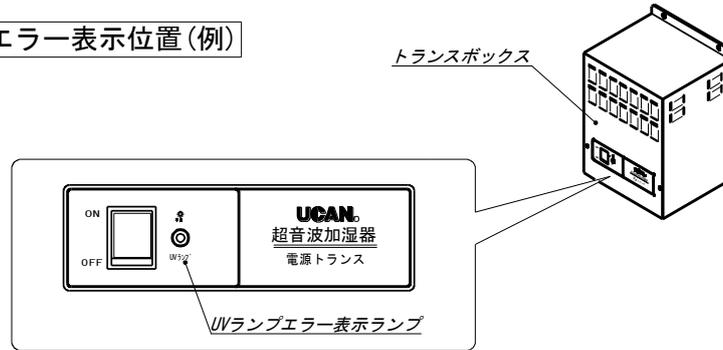
## UV ランプ注意事項、および仕様

※UV ランプ搭載機種のみ

### 1) 注意事項

UV ランプが光量不足や消灯状態になると、電源スイッチパネルにある「UV ランプエラー表示ランプ」が点灯し、加湿器が停止します。すぐに UV ランプを交換してください。(UV ランプの寿命は約 10,000 時間です。)

UVランプエラー表示位置(例)



※機種により、スイッチ板のレイアウトは異なります。

※ UV ランプ外管(石英ジャケット)表面が汚れると殺菌能力が低下しますので、定期的にウエス等で汚れを拭きとって下さい。

※ UV ランプは水槽内を殺菌しますが、接続されているダクトホース内、噴霧ノズルには有効では有りません。それらを定期的に清掃して下さい。

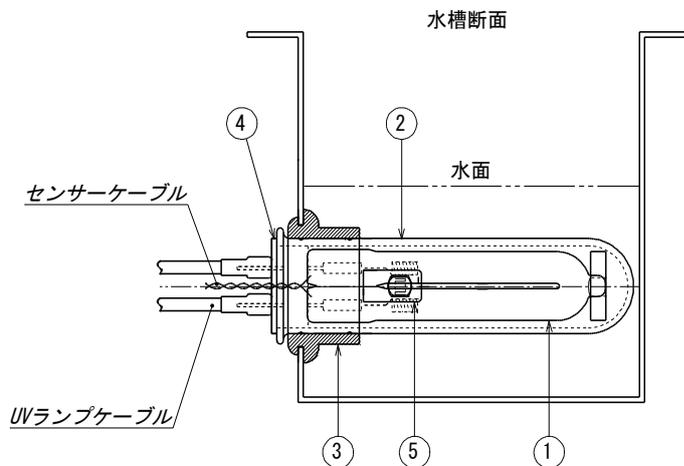


**警告**

○裸眼でUVランプを見ないでください。

○皮膚に長時間照射しないでください。

### 2) 仕様

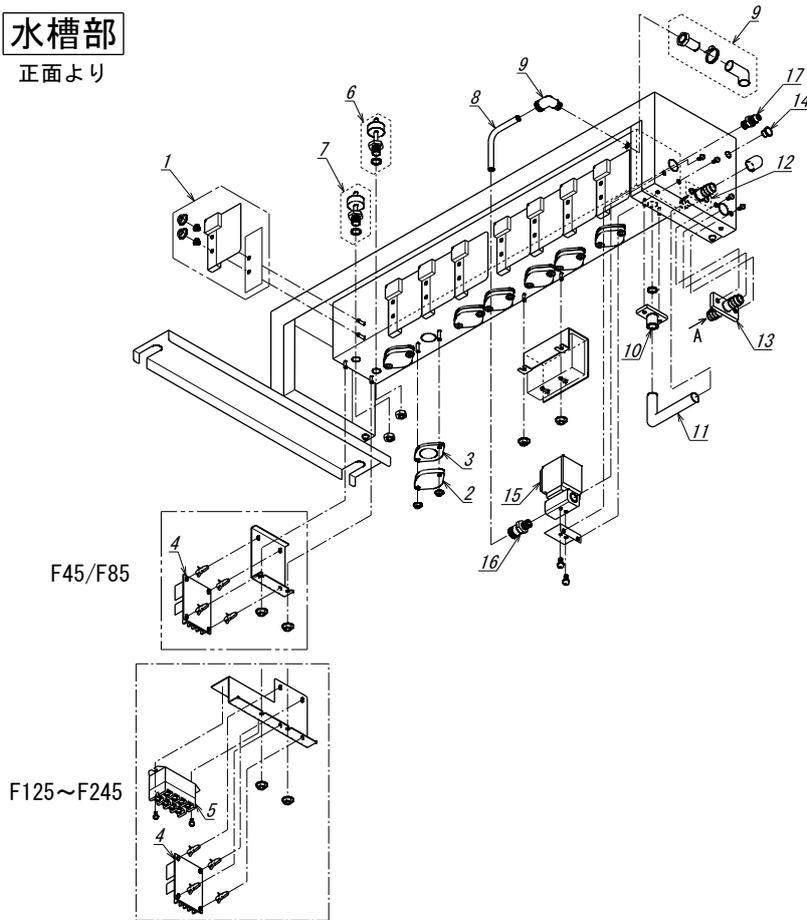


No.	品名	型式
①	紫外線ランプ	GUL 1.2
②	石英外管	φ 18, L=70mm
③	シールパッキン	UVP-001
④	保持栓	UVP-002
⑤	センサー	UVS-cds

# 部品展開図

## 水槽部

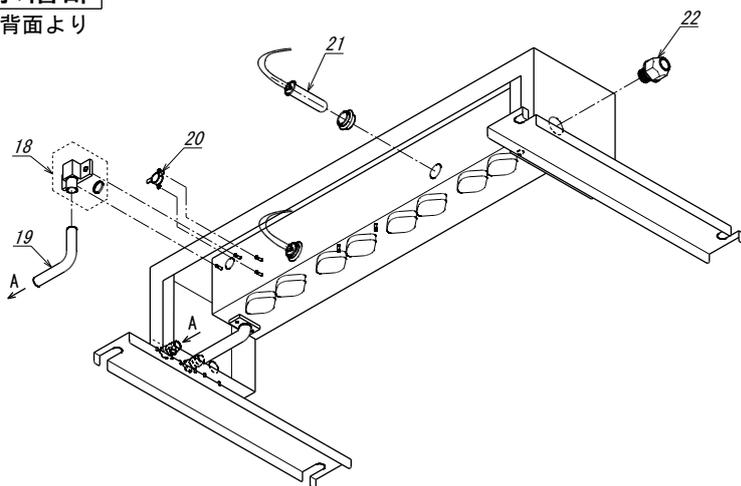
正面より



番号	部 品 名	備 考
1	ユニット基板	絶縁シート付
2	振動子	U0-30
3	スペーサー	ABS樹脂
4	制御基板	UP-003E
5	加湿用リレー	F125, F165: HL2-HTM F205, F245: G7L-BUB
6	給水用フロートスイッチ	Oリング, ナット付
7	加湿用フロートスイッチ	Oリング, ナット付
8	給水チューブ	ナイロンチューブ (透明)
9	給水口	ワンタッチ継手 ナット, 給水ゴム(小)付
10	水槽用排水口	Oリング付
11	排水ゴム	黒
12	排水口(キャップ付)	ABS樹脂
13	オーバーフロー	Oリング付
14	ブッシュ	-
15	給水電磁弁	48V仕様
16	給水継手(電磁弁用)	ワンタッチチューブ継手
17	給水銅管継手	R1/8 × φ6.35

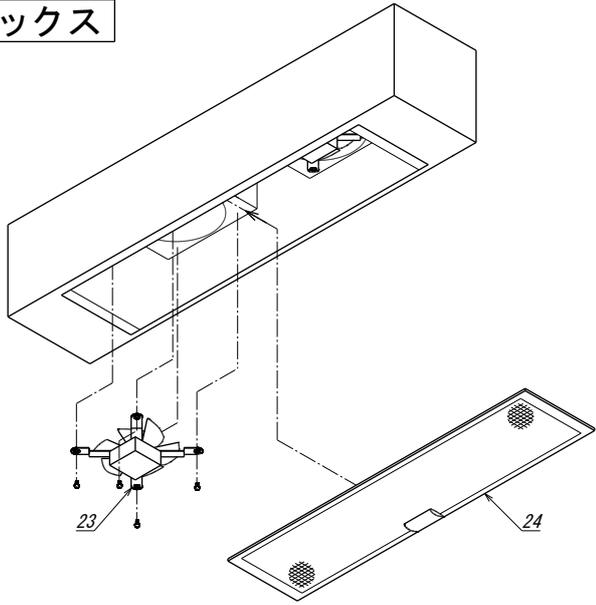
## 水槽部

背面より



番号	部 品 名	備 考
18	水槽用オーバーフロー	Oリング付
19	オーバーフロー用ゴム	φ12 × φ16
20	サーモプロテクタ	55°C OFF
21	UVランプセット	外管, バッテリ, センサ付
22	ケーブルホルダー	-

# ファンボックス



番号	部品名	備考
23	ファン	AF16108
24	エアフィルタ	PPハニカム



## 保証期間

- 1.本製品の保証期間は、工場出荷後一年間です。
- 2.保証期間中の「正常な使用状態」において「製造上」の責任による故障が発生した場合は無償修理を行います。
- 3.保証期間中でも次の場合には有償修理になります。
  - (イ) 取扱説明書の説明をお守りにならなかったために発生した故障の場合。
  - (ロ) 故障原因が本器以外による故障の場合。
  - (ハ) お客様が商品に改造を加えたために発生した故障の場合。
  - (ニ) 火災、震災などの天災地変による故障および損害。
  - (ホ) お買い上げ後の輸送、移動などによる故障の場合。
  - (ヘ) 振動子交換。
- 4.遠隔地への出張サービスを行った場合の宿泊および交通の費用は、弊社旅費規程によりその費用を請求させていただきます。
- 5.本商品の保証修理以外での補償は致しかねます。
- 6.本保証は日本国内においてのみ有効です。

お問い合わせ、ご用命は

**UCAN®**

**ユーキャン株式会社**

本 社	●〒193-0832	東京都八王子市散田町5-6-19 TEL. 042-665-8846 FAX. 042-661-3887
東京営業所	●〒160-0022	東京都新宿区新宿1-1-7 コスモ新宿御苑ビル TEL. 03-5379-1461 FAX. 03-5379-1460
大阪営業所	●〒541-0046	大阪市中央区平野町1-7-14 平野町グランドビル TEL. 06-6227-1317 FAX. 06-6227-1319
名古屋営業所	●〒460-0002	名古屋市中区丸の内3丁目2-1-2-3 宇佐美丸の内ビル TEL. 052-385-3298 FAX. 052-385-3606
福岡営業所	●〒812-0027	福岡市博多区下川端町1-3 明治通りビジネスセンター別館 TEL. 092-281-9241 FAX. 092-281-9244

なお、記載された商品の仕様・デザインなどは、改良のため予告なく変更することがございます。ご了承下さい。

<http://www.ucan.co.jp/>  
info@ ucan.co.jp

2200221